

政務活動研修報告書

福島町議会議員 溝部幸基

I. 研修地

1. 札幌市（北海道地方自治研究所）：令和4年11月26日（土）

II. 研修内容

1. 2022 自治講座「若者支援の現状と地域・自治体の課題」

実践報告①『「活躍支援」で広がる地域福祉の可能性』

<講師>・菊池まゆみ氏（秋田県藤里社会福祉協議会会長）

実践報告②「若者支援の現状と地域・自治体の課題」

<講師>・福井宏充氏（ユースワーカー）

（札幌市宮の沢若者活動センター：Youth+宮の沢）

III. 研修成果

1. 「活躍支援で広がる地域福祉の可能性」

菊池まゆみ氏（藤里社会福祉協議会会長）

◎活躍支援事業の展開

- ① 1990年～一人の不幸も見逃さない運動（ネットワーク活動推進事業）

・地域の方々を「支援する側」と「支援される側」に分けることの矛盾と弊害

⇒不幸な人を見つけ出す運動からの脱却→誰もが困ったと声を出せる地域づくり運動

*4地域には孤独・孤立対策のノウハウを持つ個人・団体が多く存在しているのでは？

- ② 2005年～合言葉「福祉でまちづくり」で「支援される人」・「支援する人」を隔てないトータルケア推進事業を開始

・「藤里方式」では、支援が必要な人は、支援する側にもなれるという発想のもと、地域の役に立ちたい思いに寄り添う支援を実施。

⇒高齢者や障害者を想定していたが、それ以上に、所属する場所を持たない若者層支援が急務と感じた。

- ③ 2010年～「こみっと」における活躍支援事業開始（ひきこもり者・長期不就労者・在宅障害者支援事業）

⇒地域ぐるみで支える場、誰もがキャリアアップ・チェンジを目指せる場を目指した。

・情報提供のため家庭訪問⇒113人(人口4000人)が対象者名簿掲載を了承。→家から出て、「こみっと」支援により、8割以上が一般就労を果たす。

*市町村単位ではなく、広域での多様な展開が必要？

*救済型福祉から活躍支援型福祉への転換が急務？

- ④ 2015年～福祉の立場から地方創生事業⇒全世帯対応の活躍支援事業の開始

・プラチナバンク事業が町民の注目度・関心度の高い事業となり、プラチナバンクスタッフが大きな役割を果たしている。

年度	登録会員数	活動延人数	年間活動収入額
2013	301人	3,773人	11,159,621円
2019	385人	7,006人	38,700,870円

◎藤里町(秋田県)の概況 (秋田県西北部・青森県境)

- ・面積：282.12 km² (総面積の9割が山林原野)
- ・人口：2,989人 ・世帯数：1,329世帯 ・65歳以上(高齢者)1,455人 (48.67%：秋田県2位)
- ・令和4年度一般会計予算：約40億円 (社協予算：3億3千万円)

◎社会福祉協議会職員体制 (合計：49人)

- | | | | |
|--------------|-----|----------|-----|
| ・法人運営 | 4人 | ・精神保健福祉士 | 10人 |
| ・地域福祉活動推進 | 5人 | ・正、准看護師 | 4人 |
| ・相談支援、権利義務養護 | 8人 | ・介護支援専門員 | 18人 |
| ・介護、生活支援サービス | 32人 | ・介護福祉士 | 25人 |
| ・社会福祉士 | 12人 | ・保育士 | 2人 |

◎地域福祉とは何か？

- ・市町村社会福祉協議会の位置付け (社会福祉法第109条より)
 - ・・・地域福祉推進を目的とする団体であって・・・
- ① 社会福祉を目的とする事業の企画、実施
- ② 社会福祉に関する活動への住民参加のための援助
- ③ 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整、助成
- ④ 前3号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

◎一人の不幸も見逃さない運動 (ネットワーク活動事業：秋田県が昭和55年度から開始)

① 対象者、実施事業

同意を得た対象者名簿の作成、当事者支援事業実施

- ・一人暮らし高齢者→交流会事業等
- ・高齢者のみ世帯→男性料理教室、配食サービス等
- ・寝たきり、認知症高齢者の介護→介護者の集い事業等
- ・知的障害者の家族等→家族交流事業等

「こみっと」支援事業
ひきこもり、長期不就労者、
在宅障害者島支援事業

② 課題

- ・対象者を限定し、地域の方々を「支援する人」・「される人」に分けることの矛盾と限界
- ・地域における福祉推進活動 (老人クラブ、ボランティア活動等) の理解と評価
- ・ソーシャルワーカー個々の理解と力量に左右されがちな事業だということ

◎トータルケア推進事業

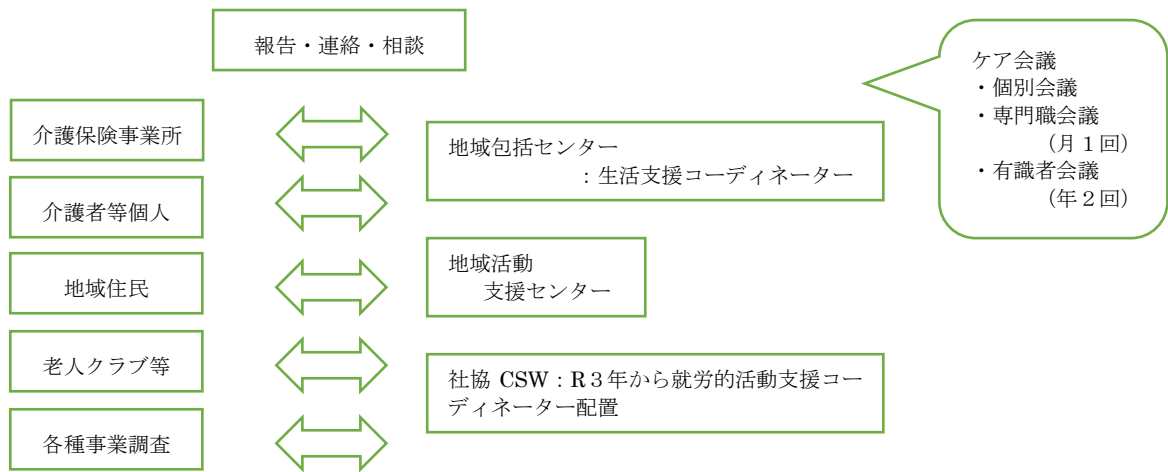
① 藤里町トータルケアフロー図(藤里方式として役職員への説明資料)⇒別添①

② 「福祉で町づくり」を合言葉に地域トータルケア事業を実施

- ・総合相談、生活支援システムの構築
 - 地域包括センター、地域活動支援センター、社協CSW機能の一体化
- ・福祉を支えるひとづくり
- ・介護予防のための健康づくり。生きがいくくり
- ・福祉による地域活性化→「福祉で町づくり」
- ・次世代の担い手づくり→若者支援→ひきこもり、長期不就労者、在宅障害者島支援事業

③ ワンストップ相談支援体制への展開

- ・行政⇔介護保険事務所・介護者個人・地域住民・老人クラブ等団体・各種事業調査



・2008年日本地域福祉研究所全国セミナーを開催からの学び

◎活躍支援だからできた「こみっと」支援事業（2010年から開始）

①ひきこもり対策は、誰の視点？

- ・原因探しは、何のため？誰のため？
 - ・治療中の病人は、社会生活を中断すべき？
- 治療ではない、福祉職だからできる支援があるはず。

②「ひきこもり」ってどんな人ですか？

- ・「ひきこもり」はいないと言い切れる高齢者
 - ・自分もひきこもりだったと言い出す若者
- 現代の若者の生きづらさを感じる

③「こみっと」支援の取組み（了解を得た「生活困難者」の方々への情報提供）

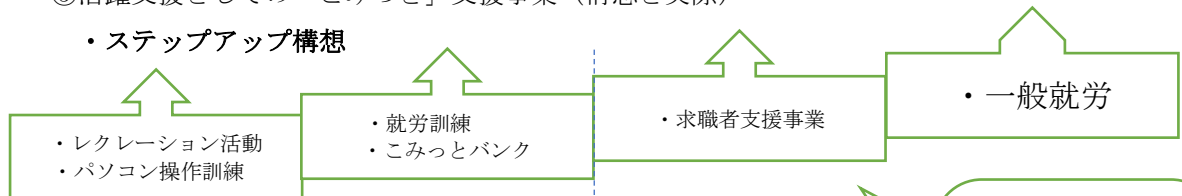
- ・「こみっと」通信の配達
- ・「こみっと」の各事業への誘い⇒「こみっと」感謝祭
- ・「求職者支援事業」等への誘い

④ 主な「こみっと」支援事業

- 1) 週1回のレクリエーション活動
 - 2) 「こみっと」共同事務所でパソコン等操作訓練
 - 3) お食事処「こみっと」での就労訓練
 - 4) 白神まいたけキッシュでの就労訓練
 - 5) 「こみっと」バンクとしての地域での活動
- ★登録団体との共同事業
★求職者支援事業の実施
★職業体験プログラム等実施

⑤活躍支援としての「こみっと」支援事業（構想と実際）

・ステップアップ構想



・こみっと支援の実際

(活躍支援)

- <地域での居場所づくり>
- ・共同事務所・シルバーバンク
 - こみっとバンク協働作業

<活動支援>

- ・求職者支援事業等各種研修事業

求職者支援事業の成果（☆庭訪問の情報により受講に至った人数）

(安心安全体制整備)

<福祉支援>

- ・就労移行支援事業等
- ・伴走型支援
- ・金銭等管理支援

・彼らが欲しいのは「こみっと」での心地よい居場所ではなく社会での居場所
・彼らの望みは支えて貰う暮らしではなく当たり前のしゃかう生活を取り戻すこと

年度	受講者数	就職者数	こみっと登録者数
----	------	------	----------

平成 22 年 (6 ヶ月)	15 人 (☆7 人)	12 人 80%(☆5 人)	3 人(☆2 人)
平成 23 年 (6 ヶ月)	15 人 (☆13 人)	10 人 66%(☆9 人)	5 人(☆5 人)
平成 24 年① (4 ヶ月)	15 人 (☆9 人)	11 人 73%(☆6 人)	1 人(☆1 人)
平成 24 年② (4 ヶ月)	12 人 (☆11 人)	8 人 72%(☆8 人)	3 人(☆2 人)
平成 25 年 (3 ヶ月)	9 人 (☆8 人)	9 人 100%(8 人)	0 人(☆0 人)
平成 26 年 (3 ヶ月)	7 人 (☆6 人)	6 人 86%(6 人)	0 人(☆0 人)

ひきこもり者等の状況推移

A (22 年度ひきこもり者等訪問対象者)

		5年未満	5~10年未満	10年以上	
総 数		113	30	27	56
男女比	男	71	12	21	38
	女	42	18	6	18

C (26 年度情報提供対象者状況)

		不明	ひきこもり歴ゼロ	5年未満	5~10年未満	10年以上	
総 数		166	31	99	8	7	21
男女比	男	72	17	37	3	2	13
	女	94	14	62	5	5	8

◎ 5 年間の訪問支援の結果は

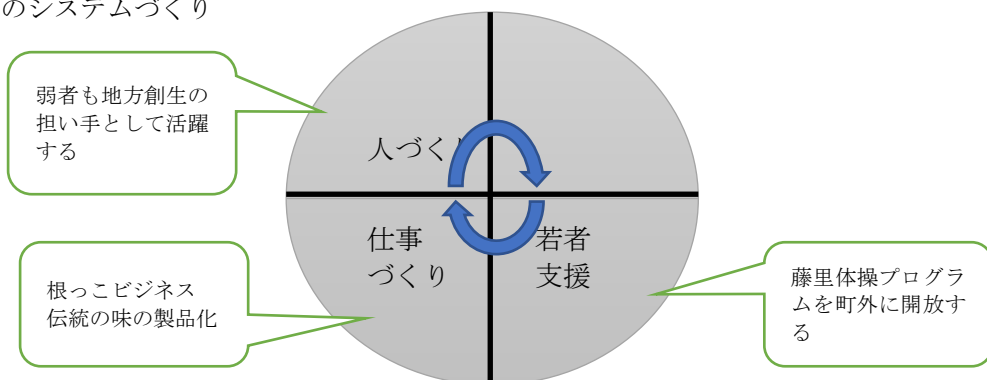
- ・「こみっと支援」で自律 31 人
- ・独自に自立 55 人
- ・変化なし 25 人
- ・その他 2 人

B (26 年度末現在ひきこもり者等の状況)

		5年未満	5~10年未満	10年以上	
総 数		25	2	5	18
男女比	男	18	1	5	12
	女	7	1	0	6

◎福祉の立場からの地方創生事業

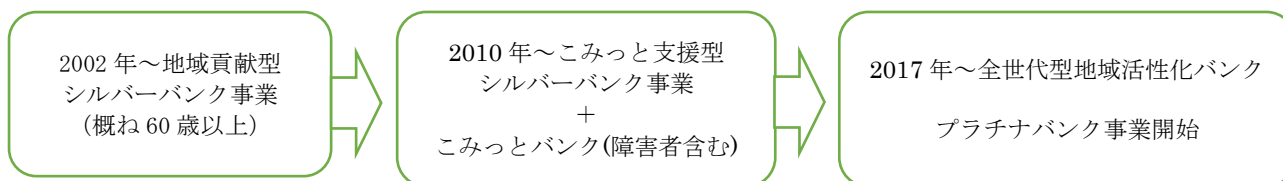
①2015 年のシステムづくり



◎「町民全てが生涯現役を目指す町づくり」への挑戦 (平成 27 年度から)

- ・福祉の立場から地方創生を考える → 弱者でも地方創生の担い手になれる
誰もが生涯現役を目指す町づくり
- ・プラチナバンク働き方登録 (働くかたち・働き方等仕事のスタイルを仕事の時間・やる気・経験等自分のスタイルを数値化し登録する。)

・プラチナバンク事業の展開



・プラチナバンク事業の実績

年度	登録会員数	活動件数	活動延人数	活動収入額(円)
2015	121	307	3,872	11,235,690
2016	301	346	3,773	11,159,621
2017	342	442	7,024	24,529,621
2018	362	411	6,107	26,267,621
2019	385	520	7,006	41,650,187
2020	390	543	10,507	38,700,870

・プラチナバンク事業の成否は、スタッフにかかっている

スタッフへお願いした活躍支援

- ・300人の会員が活躍できるよう頑張る仕事
- ・自分が稼ぎたい人にはできない仕事です
- ・山菜採り、そば打ち、うどんづくり、キッシュづくり等、様々な仕事の熟練者になってください
- ・次々と顔ぶれが変わる、ひきこもり者、知的障害者等支援ではなく活躍支援のための仕事です
- ・プラチナバンク会員のお手本が必要なのです

*仕事づくり事業例

- ・根っこビジネス、伝統の味シリーズ構想、藤里グッドデリシリーズ販売、町自慢クラブ総合支援、藤里体験プログラム、わらび畑野焼き等

◎研修考察

課題となっている社会福祉協議会の在り方の参考になることを願って研修に参加した。

以前から、藤里町社協の先進的な活動について、若干の情報を得ていたが、説明を聞くとギャップの大きさに唖然としてしまったというのが正直な感想である。

*不幸な人を見つけ出す運動からの脱却→誰もが困ったと声を出せる地域づくり運動への転換

*救済型福祉から活躍支援型福祉への転換が急務

*市町村単位ではなく、広域での多様な展開が必要

等々の視点は、当町社協の在り方を検証するための重要な着眼点であると思慮いたします。

社協中心の本格的な活動に至る基本的な背景の違いが大きな要素としてであると想像されるが、助成等町の対応、医療、介護体制等々について詳細に聞きたかったが、直接意見交換する機会を作ることも難しく、これ以上の情報は、直接藤里町を訪問し実感すべきだと思います。

札幌市宮の沢若者活動センターユースワーカー福井宏充さんの「若者支援の現状と地域・自治体の課題」については、福島の現状とは、大きくかけ離れすぎて、現実味がなく、情報として止めておくことといたしました。